

横浜市立南高校を中高一貫校に(2012年度から)	地域に根ざした高校を、エリート養成機関に。南中等教育学校にのみ、2013年度市補正予算4000万円投入して新規英語学習室設置	実施中																														
横浜市立サイエンスフロンティア高校の中高一貫校への検討開始(2014年度)	林市長は、サイエンスフロンティア高校(鶴見区)について「早い時期に中高一貫教育校として整備するため、具体的に検討したい」と表明(2013年9月13日の定例市議会)。エリート養成機関がさらに増えることになる。(※市教委はすでに2010年5月の中高一貫計画のなかで、南高校と並んで、サイエンスフロンティア高校の名前を挙げている)	検討開始予定																														
小学校体育大会	毎年10月に、市立小学校6年生全員32000人を2日間に分け、日産スタジアムで開催。全員参加の集団演技はわずか6分間で、それまでは観客席で待ち続ける。参加時刻が遅い指定された学校は、帰宅が夕方6時近くになる。交通費と、スタジアムでのオーロラビジョン映像費用などムダな出費	校内運動会や体育の授業で集団演技の練習時間を割くなど、学校の教育活動を制約している。中学校3年生全員に行っていた同内容の体育大会は10年以上前に廃止																														
横浜市子ども学力向上プログラム(2010年1月)	10年度各学校に学力向上アクションプラン策定を求め、11年度に国語、算数・数学、12年度に英語の「はまっ子学習ドリル・検定システム」の運用指示	実施していない(A小)、10年度から先取り実施(毎日昼休み後10分程度)、現在も実施(B小)、実施していない(C小)、実施していない(D中)																														
全国学力テスト(国語と算数・数学:全国の小6、中3、特別支援小6、中3、中等教育学校中3の全員対象)	結果の公表については、序列化や過度な競争に繋がらないよう十分配慮することが必要であるとして、教育委員会として個々の市町村や学校名を明らかにした公表を行うことはできない。2013年度の結果については、下記の表。 <table border="1" data-bbox="661 1038 1375 1350"> <thead> <tr> <th colspan="5">市立小学校平均正答率(市教委指導企画課による公表:中学校も同様に公表)</th> </tr> <tr> <th></th> <th>国語A</th> <th>国語B</th> <th>算数A</th> <th>算数B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>横浜市</td> <td>65.2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>全国との差</td> <td>+2.5</td> <td></td> <td>(省略)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>神奈川県</td> <td>61.5</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>全国</td> <td>62.7</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ただし、各学校の判断で公表することは認められている。実際に、港南区のS中学校など、数校は「自主的」に結果を公表している。公表の形式は、上記と同じ。</p>	市立小学校平均正答率(市教委指導企画課による公表:中学校も同様に公表)						国語A	国語B	算数A	算数B	横浜市	65.2				全国との差	+2.5		(省略)		神奈川県	61.5				全国	62.7				2014年度は4月22日実施。これまで文科省は都道府県や市町村の教育委員会に対して、市町村や域内の学校の名前を明らかにした結果の公表を認めてこなかったが、2014(平成26)年度実施から慎重な判断や対応の条件付きでこれを解禁。
市立小学校平均正答率(市教委指導企画課による公表:中学校も同様に公表)																																
	国語A	国語B	算数A	算数B																												
横浜市	65.2																															
全国との差	+2.5		(省略)																													
神奈川県	61.5																															
全国	62.7																															
「放射線リーフレット」および文科省作成「放射線副読本」授業(2012年1月から~2012年度年間を通じて)	2011年度末(12年1月)、市教委独自に文科省副読本と同趣旨のリーフレットを先取的に作成し、全校での授業を指示。さらに2012年度に、文科省副読本による授業を再度全校に指示するという念の入れ方。どちらも放射線の「安全神話」を子どもたちに刷りこむ内容。	実施していない(A小)、12年度、小1で20分程度(B小)、年間で1時間扱った(C小)、理科の授業で扱ったようだ(D中)																														
中学校社会科副読本「わかるヨコハマ」再改訂・回収問題	市教委は、「わかるヨコハマ」の関東大震災の記述について、2011年度までは「自警団の中に朝鮮人を殺害する行為に走る者がいた」としていたものを、2012年度では「朝鮮人に対する迫害と虐殺を行い」「朝鮮人や中国人が虐殺される事件が起きた」と改訂。ところが2012年7月19日市議会での自民党議員の追及に屈し、「虐殺を殺害に」などに改悪した再改訂版を2013年度に配布して、12年度版の回収を指示。	2013年度、新入生と新2年生の全員に再改訂版を配布																														
土曜日授業	市教委は2012年8月から、市立小・中学校40校で土曜日授業を試験的に導入し、2014年度から、全小中学校に年4~6回実施を予定していたが、13年秋の校長会では、実施を強制しない、とトーンダウン。	トーンダウン																														
学校選択制	市教委は08年度から検討開始、09年9月からの検討委員会では校長やPTA代表から慎重論が相次ぎ、当初の2011年春からのモデル事業実施を先送り	トーンダウン																														

④教育条件整備は不十分。

市独自の予算を伴う少人数学級を実施しない	国レベル(小1小2の35人以下学級:ただし小2は法改正なし)の実施にとどめる。児童支援専任教諭の全小学校配置(2014年度)、小中をサポートするための非常勤講師の配置、小中へのアシスタントティーチャー派遣《2010年度から毎年度200人派遣》など「枝葉」部分は改善を図るが、根幹部分の改善を頑なに拒否	2013年度スタート時、市内小学校86校で小2から小3進級に際して40人以下学級に逆戻り
市立中学校夜間学級の廃止・統合(2014年度から)	鶴見、浦島丘、仲尾台、西、蒔田中を蒔田中1校に統合し、他の4校は廃校	実施決定
朝鮮学校への補助金凍結	2013年度、250万円の凍結実施。2014年度も凍結継続。	実施中